

ユーカリほ場にオオナギナタガヤを播種することで 除草作業を省力化できる（檜葉町）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 浜通り平坦地域におけるユーカリ栽培の実証（檜葉町）

担当者 佐藤優平

I 新技術の解説

1 要旨

浜通り平坦地域では、新たな品目としてユーカリが注目されているが、除草作業が追いつかないほ場が見られるなど、作業の省力化が求められている。そこで、被覆作物としてオオナギナタガヤによる除草作業の省力化を実証したところ、被覆作物を播種しないところと比較して、除草回数を半分に減らすことができた。

- (1) オオナギナタガヤの被覆度は4月～7月にかけて70%以上となった（図1、図2）。
- (2) オオナギナタガヤを播種した区では4月から9月までの除草回数が4回、無播種区では除草回数が8回となり、4月から7月にかけて除草回数を削減できた（図1、表1）。

2 期待される効果

- (1) 花木栽培における除草作業の省力化が可能になる。

3 活用上の留意点

- (1) オオナギナタガヤ「ゾロ」（雪印種苗株式会社）を使用した。
- (2) オオナギナタガヤの播種は2020年11月12日に行い、10aあたり3kg播種した。
- (3) 播種前には、通路を中耕除草した上で播種した。
- (4) オオナギナタガヤは2年目以降も落下種子によって発芽するが、効果を維持するために、毎年10aあたり1kg～1.5kg追播することが望ましい。単価は1kgあたり4050円であった（2020年購入時）。

II 具体的データ等



図1 オオナギナタガヤ区および無播種区の様子（各日除草前）

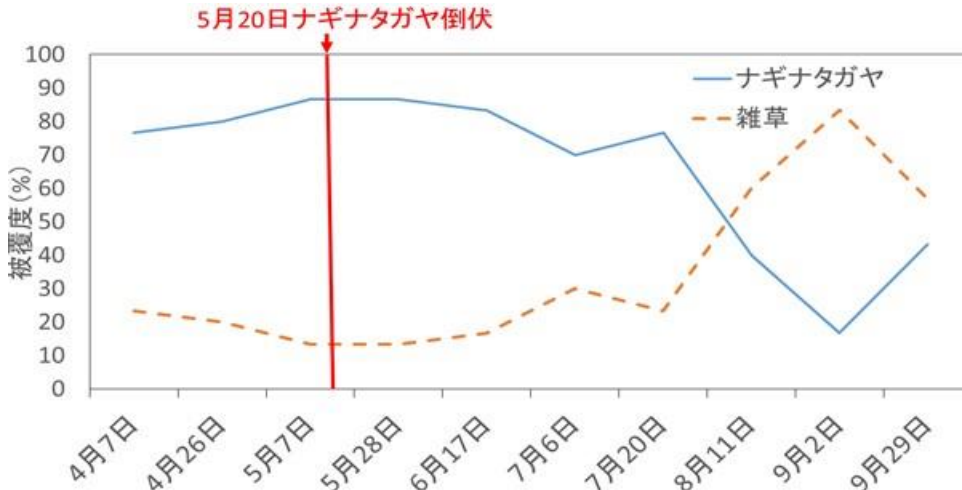


図2 オオナギナタガヤ及び雑草の通路被覆度（達観調査）

表1 各区の月別除草回数

区	除草回数(回)							合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
オオナギナタガヤ	0	1	0	1	1	1	4	
無播種	0	2	1	2	1	2	8	

※各区ともに主な雑草の草丈が30cm以上になり通路を半分以上覆った時点で除草を行った。

III その他

1 執筆者

佐藤優平

2 実施期間

令和3年度

3 主な参考文献・資料

なし